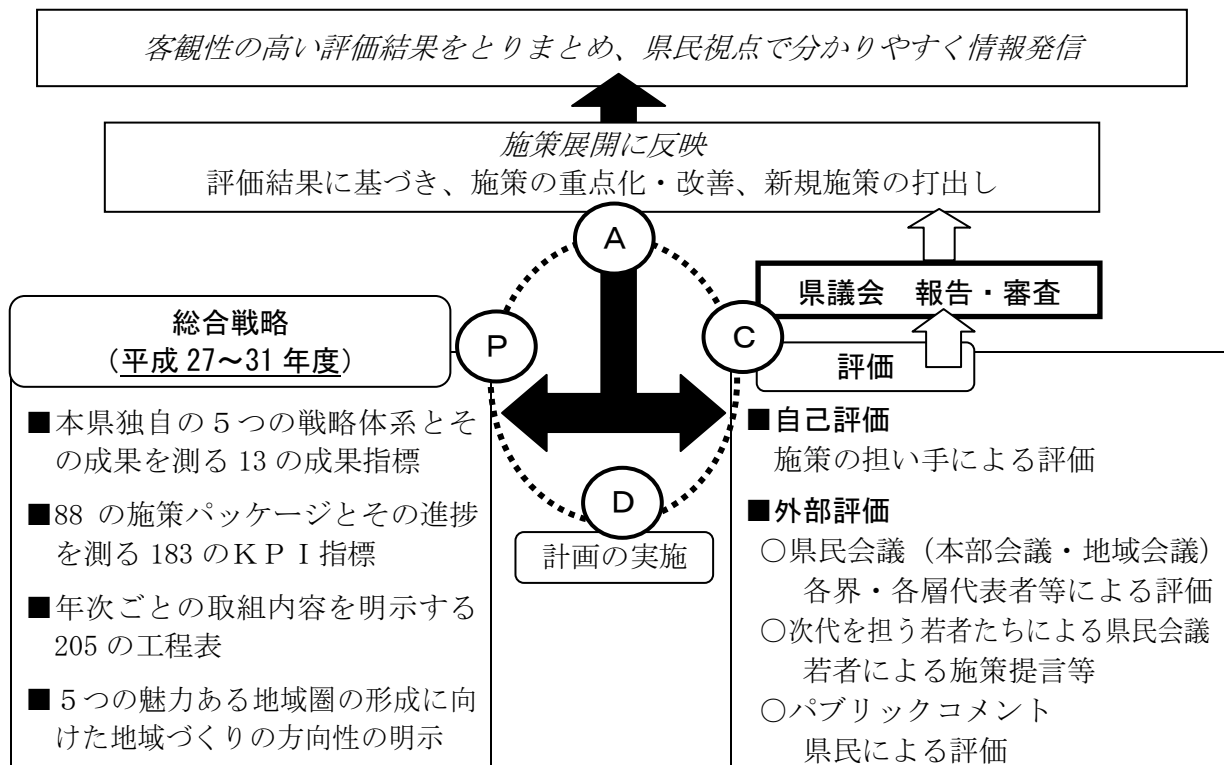


## 地方創生の取組について

## 1 要旨

- ・平成 27 年度に策定した「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な推進を図るため、進捗評価を実施する。
- ・県議会をはじめ、産官学金労言の各界・各層の代表者等に参画いただく「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議」や5つの圏域ごとの「地域会議」、パブリックコメントなどの御意見を伺いながら、外部評価を徹底し、PDCAサイクルによる施策の見直しや改善を行い、戦略の実効性を高めていく。

## 2 評価スキーム



## 3 スケジュール (予定)

区分	概要
自己評価	・総合戦略に掲げる施策の進捗等を踏まえた評価の実施
次代を担う若者たちによる県民会議	・ワークショップを通じた「若者が望む社会のあり方」の取りまとめ (9 月)
県民会議・地域会議	・自己評価案を審議 (県民会議・地域会議 10 月~11 月)
パブリックコメント	・県民意見を聴取 (10 月)
県議会への報告・審査	・12 月定例会 各常任委員会において審査

評価結果の公表 (2 月)・新年度予算等への反映

# 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27~31)の進捗状況 (平成29年10月13日現在)

## 5つの戦略

## 成果指標の推移

## 重要業績評価指標(KPI)の現状

1 「命」を守り、日本一「安全・安心」な県土を築く

指標名	基準値	H28評価	現状値	進捗	H31目標値
想定される大規模地震・津波による犠牲者	(H25) レベル2の地震・津波 約105,000人	(H27) レベル2 3割減少 約74,000人	(H30) H31.6 公表予定	—	(H34) 8割減少

戦略の柱	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
1-1 安全・安心な地域づくり	2	1	2	4	0	2	11
小計	2	1	2	4	0	2	11
	22%	11%	22%	45%	0%		

2 誰もが活躍できる、安定した雇用を創出する

指標名	基準値	H28評価	現状値	進捗	H31目標値
就業者数	(H26) 196.5万人	(H27) 197.3万人	(H28) 198.4万人	↗	(H34) 8千人増加
1人当たり県民所得	(H26速報値) 331.4万円	(H27速報値) 327.8万円	(H28速報値) 327.8万円	→	380万円以上
県内総生産(名目)	(H26速報値) 15兆7,502億円	(H27速報値) 15兆8,431億円	(H28速報値) 15兆4,599億円	↘	18.5兆円以上

戦略の柱	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
2-1 産業の振興と雇用の創出	3	9	8	5	5	5	35
2-2 女性や健康な高齢者が活躍する社会の実現	1	2	2	1	2	1	9
2-3 人口減少下における持続的成長	0	1	0	0	0	0	1
小計	4	12	10	6	7	6	45
	10%	31%	26%	15%	18%		

3 “ふじのくに”ならではの魅力ある暮らしを提供し、新しい人の流れをつくる

指標名	基準値	H28評価	現状値	進捗	H31目標値
人口の社会移動	(H26年) △7,240人 (H27) △6,206人	(H28年) △6,390人	(H29年) H30.1 公表予定	—	(H31) 転入超過
静岡県が住みよいところと思っている人の割合	(H27県政世論調査) 60.9%	(H28県政世論調査) 57.7%	(H29県政世論調査) 57.4%	↘	(H32県政世論調査) 80%
「文・武・芸」のいずれかの分野において自己を磨く努力をしている人の割合	(H27県政世論調査) 37.4%	(H28県政世論調査) 35.2%	(H29県政世論調査) 34.8%	↘	(H32県政世論調査) 80%
健康寿命の延伸	(H22) 男性71.68歳 女性75.32歳	(H25) 男性72.13歳 女性75.61歳	—	—	(H31年) 平均寿命の増加分を上回る健康寿命増加

戦略の柱	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
3-1 移住・定住の促進	1	7	6	2	1	1	18
3-2 交流の拡大	3	2	5	5	2	2	19
3-3 魅力ある教育環境の整備	2	0	2	4	5	8	21
3-4 健康づくりの推進	1	1	0	1	1	1	5
小計	7	10	13	12	9	12	63
	14%	20%	25%	23%	18%		

4 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる

指標名	基準値	H28評価	現状値	進捗	H31目標値
合計特殊出生率	(H26) 1.50	(H27) 1.54	(H28) 1.55	↗	(H32年) 「2」
「自分の住んでいるまちが子どもを産み、育てやすいところ」と感じている人の割合	(H27県政世論調査) 52.8%	(H28県政世論調査) 51.6%	(H29県政世論調査) 52.3%	↘	(H32県政世論調査) 80%

戦略の柱	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
4-1 社会総がかりでの次世代育成の促進	0	3	1	1	0	0	5
4-2 夢を持ち安心して家庭を築ける環境整備	0	0	0	0	2	0	2
4-3 希望出生数をかなえる環境整備	1	0	0	0	1	1	3
4-4 子育て支援の充実	3	2	2	4	6	1	18
小計	4	5	3	5	9	2	28
	15%	19%	12%	19%	35%		

5 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する

指標名	基準値	H28評価	現状値	進捗	H31目標値
「地域の絆や支え合いの仕組みが形成されている」と感じている人の割合	(H27県政世論調査) 55.8%	(H28県政世論調査) 59.1%	(H29県政世論調査) 62.0%	↗	(H32県政世論調査) 80%
自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合	(H27県政世論調査) 23.2%	(H28県政世論調査) 22.2%	(H29県政世論調査) 23.3%	↗	(H32県政世論調査) 50%
各地域圏の社会移動	—	(H28) 0.8	(H29年) H30.1 公表予定	—	(H31年) 転入超過

戦略の柱	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
5-1 地域社会の活性化	0	4	6	4	8	4	26
5-2 行政運営の効率化・最適化と連携の推進	2	2	3	0	2	1	10
小計	2	6	9	4	10	5	36
	7%	19%	29%	13%	32%		

全体集計	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	合計
合計(再掲含む)	19	34	37	31	35	27	183
合計(再掲除く)	(19)	(30)	(35)	(31)	(34)	(27)	(176)
	13%	20%	23%	21%	23%		

1 戦略の方向性

切迫性が一段と増している東海地震等への更なる対策を図ることで、想定される大規模地震・津波による被害の軽減に取り組み、これらに対する人々や企業等の不安を払拭し、我が国における防災先進県としての優位性をより一層伸長していく。

2 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	H28 評価	現状値	推移	目標値
想定される大規模地震・津波による犠牲者	(H25) レベル2の地震・津波 約 105,000 人	(H27) レベル2 3割減少 約 74,000 人	(H30) H31.6 公表予定	—	(H34) 8割減少

3 重要業績評価指標（KPI）の達成状況

(1) 主な指標

1-1 安全・安心な地域づくり	区分
多数の者が利用する大規模な建築物の耐震化率 (H26)88.9%→(H28)90.3%	C
第4次地震被害想定を対象とした津波対策施設(河川・海岸)の整備率 (H26)河川 1.5% 海岸 0.04%→(H28)河川 1.5% 海岸 0.3%	C
津波避難施設空白地域を解消した市町の割合 (H26)9.5%→(H28)28.6%	B
被害想定に即した住民配布用ハザードマップを整備した市町の割合 (H26)45.7%→(H28)100%	目標値以上
居住者等により自発的に策定される地区防災計画を市町地域防災計画に位置付けた市町の割合 (H27.10)0%→(H28)11.4%	C
静岡県地域防災力強化人材育成研修修了者数 (H22~26累計)10,275人→(H27~28累計)7,112人	A
「内陸のフロンティア」を拓く取組を実施する市町数 (H26)19市町→(H28)35市町	目標値以上
静岡県の防災対策の先進性を認める企業等の割合 (H27)98.6%→(H29)H29.10月公表予定	—
静岡県地震防災センターの来館者数 (H22~26累計)290,807人→(H27~28累計)90,506人	C
静岡県地震防災センターホームページのアクセス数 (H25~26累計)853万件→(H27~28累計)852万件	B

(2) 戦略の柱ごとの状況

	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
1-1	2	1	2	4	0	2	11
計	2	1	2	4	0	2	11

<参考> 評価区分について

区分	判断基準
目標値以上	「現状値」が「目標値」以上のもの
A	「現状値」が「期待値」の推移の+30%超え～「目標値」未滿のもの
B	「現状値」が「期待値」の推移の±30%の範囲内のもの
C	「現状値」が「期待値」の推移の-30%未滿～「基準値」超えのもの
基準値以下	「現状値」が「基準値」以下のもの
—	統計値等発表前、当該年度に調査なし等

※期待値：計画最終年度（平成31年度）に目標を達成するものとして、基準値から目標値に向  
各年均等に推移した場合における各年の数値

## 4 主な取組

### 津波対策「静岡方式」の推進



浜松市沿岸域防潮堤

レベル1の津波を防ぐ施設やレベル1を超える津波に対する安全向上策である「静岡モデル」などのハード対策、「警戒避難体制の整備」などのソフト対策を、地域の歴史・文化や景観等との調和が図られるよう、住民の意見を取り入れながら、地域の特性に合わせて進める「静岡方式」の津波対策を県下全域で展開している。

### 地域防災リーダーの育成



ふじのくに防災士養成講座

地域の防災活動を支える人材を育成する「地域防災力強化人材育成研修」等を実施し、大規模災害発生時に自らの判断で的確な行動ができる人材や次世代の地域防災の担い手などを育成する「ふじのくに防災士養成講座」等を実施するとともに、養成した人材を「地域防災人材バンク」として登録するなど、活動の場を設けている。

### 防災・減災と地域成長の両立



市内4社と市の協定締結式(裾野市)

有事において「命の道」となる新東名高速道路等の整備を促進し、災害時の緊急輸送ルート確保等を行うとともに、それらを活用した物流拠点の創出や、工業団地等の整備を行っている。災害時に防災拠点となるような施設の整備とともに、進出企業と地元自治体との防災協定締結を促進している。

### 防災力の発信



避難所運営ゲーム演習の様子

地震防災センターを拠点とした情報発信やふじのくに防災学講座などの各種セミナーを開催している。また、地震防災センターの防災啓発・人材育成に関する機能強化を図り、県民の防災意識の更なる向上を目指すため、地震災害、土砂災害に対応する防災先進県にふさわしい情報発信拠点として、リニューアルを進めている。

1 戦略の方向性

全国に比べ、回復が遅れている本県産業の再生と活性化を図るとともに、若者や女性、障害のある人など、誰もが就労できる雇用の場を創出する。また、健康寿命日本一という本県ならではの強みを活かし、高齢者が元気に能力を発揮することができる環境整備など、誰もが活躍できる魅力ある社会を実現していく。

2 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	H28 評価	現状値	推移	H31 目標値
就業者数	(H26年) 196.5万人	(H27年) 197.3万人	(H28年) 198.4万人	↑	(H34年) 8千人増加
1人当たり県民所得	(H26速報値) 331.4万円	(H27速報値) 327.8万円	(H28速報値) 327.8万円	→	380万円以上
県内総生産(名目)	(H26速報値) 15兆7,502億円	(H27速報値) 15兆8,431億円	(H28速報値) 15兆4,599億円	↓	18.5兆円以上

3 重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1) 主な指標

2-1 産業の振興と雇用の創出	区分
静岡新産業集積クラスター事業化件数 (H22~26累計)164件→(H27~28累計)100件	A
静岡新産業集積クラスターにおける高度産業人材の育成数 (H22~26累計)430人→(H27~28累計)197人	B
新成長分野の取組件数 (H22~26累計)499件→(H27~28累計)221件	B
ふじのくにCNFフォーラムによる製品(用途)開発件数 (H26)0件→(H27~28累計)0件	基準値以下
農業産出額 (H26年)2,154億円→(H28年)H29.12月公表予定	—
ベンチャー企業等の新製品・新サービスの事業化件数 (H22~26累計)15件→(H27~28累計)6件	C
ものづくり革新インストラクターの養成人数 (H26)0人→(H27~28累計)25人	B
企業立地件数 (H22~26累計)348件→(H27~28累計)288件	A
県外からの企業立地件数 (H22~26累計)74件→(H27~28累計)74件	A
6次産業化等の新規取組件数 (H26)147件→(H27~28累計)337件	A
品質の確かな県産材製品等の出荷量 (H26)32千m <sup>3</sup> →(H28)91千m <sup>3</sup>	A
県外人材の正規雇用者数 (H27)170人→(H27~28累計)462人	A
就職面接会決定率 (H26)8.2%→(H28)12.4%	目標値以上

2-2 女性や健康な高齢者が活躍する社会の実現	区分
行政及び企業における指導的地位(課長相当職以上)に占める女性の割合 県 (H26)9%→(H28)7.2%、市町 (H26)11% →(H28)12.1%、民間 (H23)8.5%→(H28)調査なし	県:基準値以下 市町:C 民間:-
シルバー人材センターボランティア(地域社会参加)活動実施人員 (H26)5,047人→(H28)4,711人	基準値以下

2-3 人口減少下における持続的成長	区分
成長産業分野の職業訓練による人材育成数 (H23~26累計)749人→(H27~28累計)607人	A

(2) 戦略の柱ごとの状況

	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
2-1	3	9	8	5	5	5	35
2-2	1	2	2	1	2	1	9
2-3	0	1	0	0	0	0	1
計	4	12	10	6	7	6	45

## 4 主な取組

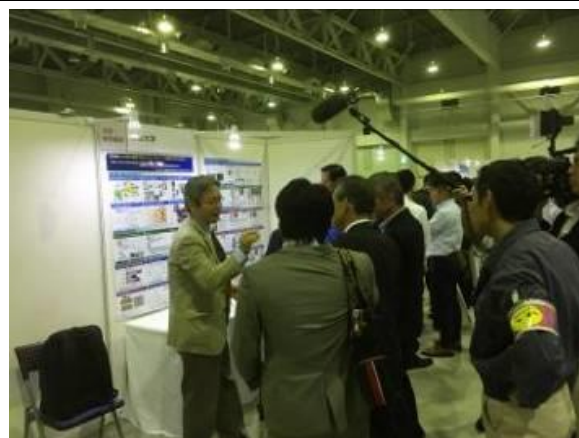
### AOI-PARCの誕生



AOI-PARC (アオイパーク)

AIやICTをはじめとする科学技術の急速な発展により、農業は生産性革新というべき大きな変革期を迎えている。この変革に対応し、農業・食料・健康を総合した科学技術・産業において、産学官金・農商工連携のオープンイノベーションにより、新しい価値を創造する拠点施設を平成29年8月、沼津市西野にオープンした。

### ふじのくにCNFプロジェクト



CNFサンプル企業展示会

セルロース・ナノファイバー（CNF）を活用した新しい産業の創出を図るため、研究開発と人材育成を目的とした大学寄附講座の開設、企業間マッチング等を行うコーディネータの配置、CNFの製造企業とユーザー企業等とのビジネスマッチングの場を設ける展示会などを行い、地域企業による製品開発を促進している。

### 「ふじのくに女性活躍応援会議」



ふじのくに さくや姫サミット

官民一体のネットワーク組織「ふじのくに女性活躍応援会議」を核として、女性の活躍推進に関する自主的・継続的な活動意欲及び社会的機運の醸成、企業等で働く女性のネットワークづくりの場の提供を目的とした「ふじのくに さくや姫サミット」の開催や、企業における経営者の意識改革を図る取組を促進している。

### 12 信金と企業人材育成で協働



信用金庫との協定締結式

深刻な人材不足を抱える県内企業の人材育成を支援するため、平成29年9月、県内12信用金庫と企業人材育成協定を締結した。企業の現場に精通した信用金庫が持つ地域企業とのネットワークを、技術専門校が行う在職者訓練の周知とニーズ把握に活かし、在職者のスキルアップ等を協働で推進している。

### 1 戦略の方向性

大都市圏にはない、富士山をはじめとする豊かな自然環境や歴史・文化、利便性の高い交通インフラなどの本県の「場の力」を最大限に活かし、静岡ならではの多様なライフスタイルを実現できる魅力ある地域づくりに取り組み、本県への新しい人の流れをつくりあげていく。

### 2 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	H28 評価	現状値	推移	H31 目標値
人口の社会移動	(H26年) △7,240人	(H28年) △6,390人	(H29年) H30.1 公表予定	—	(H31年) 転入超過
静岡県が住みよいところ と思っている人の割合	(H27 県政世論調査) 60.9%	(H28 県政世論調査) 57.7%	(H29 県政世論調査) 57.4%	↓	(H32 県政世論調査) 80%
「文・武・芸」のいずれかの 分野において自己を磨く努 力をしている人の割合	(H27 県政世論調査) 37.4%	(H28 県政世論調査) 35.2%	(H29 県政世論調査) 34.8%	↓	(H32 県政世論調査) 80%
健康寿命の延伸	(H22年) 男性 71.68 歳 女性 75.32 歳	(H25年) 男性 72.13 歳 女性 75.61 歳	—	—	(H31年) 平均寿命の増 加分を上回る 健康寿命増加

### 3 重要業績評価指標（KPI）の達成状況

#### (1) 主な指標

3-1 移住・定住の促進	区分
住宅及び住環境に対して満足している人の割合 (H27) 76.9%→(H29) 76.3%	基準値以下
豊かな暮らし空間の実現に取り組む市町数 (H26) 7 市町→(H28) 18 市町	B
空き家バンクの設置等、空き家の活用に取り組む市町数 (H26) 9 市町→(H28) 22 市町	B
県及び市町の移住相談窓口等を利用した県外からの移住者数 (H24~26 累計) 144 人→(H27~28 累計) 740 人	A
国の新たな制度を活用した受入の件数(本社機能移転、政府機関移転等) (H28) 東部地域 1 件	B

3-2 交流の拡大	区分
観光交流客数 (H25) 1 億 4,497 万人→(H28) 1 億 5,294 万人	C
外国人延べ宿泊者数 (H26) 74.6 万人→(H28) 157.0 万人	B
富士山静岡空港外国人出入国者数 (H26) 19.1 万人→(H28) 21.6 万人	C
富士山静岡空港の利用者数 (H26) 54.9 万人→(H28) 61.1 万人	C
クルーズ船の寄港隻数(県内港湾) (H22~26 累計) 48 隻→(H27~28 累計) 40 隻	B

3-3 魅力ある教育環境の整備	区分
社会体験活動を実施している学校の割合(公立) (H26) 95.8%→(H28) 95.9%	C
「大学の教育内容に満足している」と答える大学生の割合 (H25) 79.2%→(H29) H30.2 月公表予定	—

3-4 健康づくりの推進	区分
ふじ33プログラムを活用した健康教室実施市町数 (H26) 23 市町→(H28) 33 市町	A

#### (2) 戦略の柱ごとの状況

	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
3-1	1	7	6	2	1	1	18
3-2	3	2	5	5	2	2	19
3-3	2	0	2	4	5	8	21
3-4	1	1	0	1	1	1	5
計	7	10	13	12	9	12	63

## 4 主な取組

### 移住・定住の促進



空き家めぐり & 移住体験ツアー

東京都内の移住相談窓口の運営や移住希望者の段階に合わせた情報発信、市町等と連携した受入態勢の強化に取り組んでいる。“ふじのくに”の魅力を最大限に活かし、田舎暮らしや地方都市での便利な生活、趣味を満喫する生活など、本県で実現可能な多彩なライフスタイルを提案することにより、本県への移住・定住を促進している。

### DMOを核とした観光地域づくり



浜名湖でのパラセーリング体験

平成29年1月に設置した県域DMO「静岡ツーリズムビューロー」(TSJ)等と連携を図り、地域のDMOを核に、多様な関係者と協同し、データ分析などの科学的アプローチにより旅行者のニーズを的確に捉えながら、暮らし、自然、歴史、文化、スポーツ等の幅広い資源を最大限に活用し、戦略的に交流人口の拡大を図る観光地域づくりを進めている。

### グローバル人材の育成



高校生の海外留学

国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、総合教育会議における協議を踏まえ、平成28年度、民間からも寄附金をいただき、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設した。高校生の海外留学や海外インターンシップ、グローバルハイスクールなどへの支援を実施している。

### 健康でいきいきと暮らせる長寿県づくり



社会参加促進フェア in 磐田

ふじのくに型人生区分の提示、その壮年熟期世代を対象とした社会参加促進事業を展開し、高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境づくりを進めている。要介護状態になっても住み慣れた地域で、いきいきと暮らすことができる環境を整えるため、保健、医療、福祉が連携した施策を進めている。



## 戦略4 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる

### 1 戦略の方向性

結婚や出産を望む若い世代が希望どおり家庭を築き、安心して出産や子育てができる「生んでよし 育ててよし」の理想郷の実現に向けた社会総がかりの取組を進める。

### 2 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	H28 評価	現状値	推移	H31 目標値
合計特殊出生率	(H26 年) 1.50	(H27 年) 1.54	(H28 年) 1.55	↑	(H31 年) 「2」
「自分の住んでいるまちが子どもを生み、育てやすいところ」と感じている人の割合	(H27 県政世論調査) 52.8%	(H28 県政世論調査) 51.6%	(H29 県政世論調査) 52.3%	↓	(H32 県政世論調査) 80%

### 3 重要業績評価指標（KPI）の達成状況

#### (1) 主な指標

4-1 社会総がかりでの次世代育成の促進	区分
仕事と子育て(介護)の両立支援・職場環境づくりに取り組んでいる企業の割合 (H26)64.1%→(H28)76.7%	A
固定的性別役割分担意識にとらわれない男性の割合 (H24)53.3%→(H28)55.4%	B
地域で子どもを育む活動に積極的に参加した人の割合 (H27)10.7%→(H29)11.4%	C

4-2 夢を持ち安心して家庭を築ける環境整備	区分
平均初婚年齢 (H26)男 31.0 歳 女 29.1 歳→(H28)男 31.1 歳 女 29.2 歳	基準値以下
しずおかジョブステーションの若者の利用者数 (H26)16,090 人→(H28)13,342 人	基準値以下

4-3 希望出生数をかなえる環境整備	区分
新生児訪問実施率 (H26)97.1%→(H28)98.2%	目標値以上

4-4 子育て支援の充実	区分
待機児童ゼロの市町数 (H27.4.1)22 市町→(H29.4.1)16 市町	基準値以下
公的保育サービスの受入児童数 (H27.4.1)56,515 人→(H29.4.1)61,371 人	C
延長保育の受入施設数 (H26)398 か所→(H29)H29.10 月公表予定	—
「学校生活に満足している」と答える児童生徒の割合(公立小中高特、私立高) (H26)公立小中高特 76.7%、私立高 76.8%→(H28)公立小中高特 76.3%、私立高 74.8%	基準値以下
学校支援地域本部を有する学校数及び同等の機能を有する学校数 (H26)275 校→(H28)313 校	A
ふじさんっこ応援隊の参加団体数 (H26)1,094 団体→(H28)1,333 団体	目標値以上
ひとり親の年間就職者数 (H26)2,046 人→(H28)1,851 人	基準値以下

#### (2) 戦略の柱ごとの状況

	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
4-1	0	3	1	1	0	0	5
4-2	0	0	0	0	2	0	2
4-3	1	0	0	0	1	1	3
4-4	3	2	2	4	6	1	18
計	4	5	3	5	9	2	28

## 4 主な取組

### 子育てしやすい職場づくりの推進



イクボス養成講座

部下のワーク・ライフ・バランスを考え、その能力を最大限引き出して育成し、自らも輝く管理職“イクボス”を普及するため、イクボス養成講座を開催している。また、子育てしやすい職場環境づくりのため、優れた取組を実施している企業等を表彰して広く周知するなど、「子育てに優しい職場環境づくり」を推進している。

### 夢を持ち安心して家庭を築ける環境の整備



大学生が創る未来への羅針盤発表会

2人から3人の子を持ちたいという希望をかなえるため、全国に先駆け、各市町の合計特殊出生率に影響を与える要因を分析した「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」を作成した。この羅針盤を活用して、大学生からの政策提言発表会を開催したほか、各市町が弱点を克服するために実施する効果的な事業を支援している。

### 子どもや母親の健康の保持・増進



赤ちゃん訪問

市町が行う乳幼児検診等について、広域的、専門的な立場から支援を行うことにより、すべての市町において高い健診受診率や新生児訪問実施率を維持している。今後も、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めるために、妊娠期から子育て期までの相談等、切れ目ないサービス提供体制の整備を進めている。

### 地域や職場における子育ての支援



ふじさんっこ応援フェスタ

平成 25 年度から「ふじさんっこ応援フェスタ」を開催し、子育て世代を中心に 4 年間で延べ約 45,000 人の参加者を集め、社会全体で子育てを応援する気運があることを周知した。また、ふじさんっこ応援隊の参加団体数は 1,300 を超え、子育てを応援する気運の醸成とともに、地域の子育て環境の改善に貢献している。

1 戦略の方向性

地域と地域の連携等による魅力ある地域圏の形成をはじめ、効率的・自律的な行政運営の検討・推進など、これまで築いてきた社会に代わる、人口が減少しても快適で安全な生活を営むことができる地域社会の創造に向けた取組を進める。

2 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	H28評価	現状値	推移	H31目標値
「地域の絆や支え合いの仕組みが形成されている」と感じている人の割合	(H27 県政世論調査) 55.8%	(H28 県政世論調査) 59.1%	(H29 県政世論調査) 62.0%	↑	(H32 県政世論調査) 80%
<b>&lt;5つの魅力ある地域圏の形成&gt;</b>					
自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合	(H27 県政世論調査) 23.2%	(H28 県政世論調査) 22.2%	(H29 県政世論調査) 23.3%	↑	(H32 県政世論調査) 50%
各地域圏の社会移動 ※	—	(H28 年) 0.8	(H29 年) H30.1 月 公表予定	—	(H31 年) 転入超過

※各地域圏の改善率をポイント化した5圏域の平均値

3 重要業績評価指標（KPI）の達成状況

(1) 主な指標

5-1 地域社会の活性化	区分
県民の地域活動への参加状況 (H27) 79.3%→(H29) 76.2%	基準値以下
地域包括支援センター設置数 (H26) 139 か所→(H28) 143 か所	B
県及び県内市町の国際交流協定提携数 (H26) 85 件→(H28) 104 件	A
日ごろ生活を営んでいる範囲において、都市機能が充足していると感じている人の割合 (H27) 49.4%→(H29) 47.8%	基準値以下
自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う県民の割合 (H27) 71.5%→(H29) 70.7%	基準値以下
地域公共交通網形成計画の策定区域数 (H26) 0 地区→(H28) 5 地区	B

5-2 行政運営の効率化・最適化と連携の推進	区分
設置する広域連合数(見込みを含む) (H26) 0 件→(H28) 0 件	基準値以下
市町間、市町・県による連携協約等の締結(見込)件数 (H26) 0 件→(H28) 4 件	A
市町・県・民間による連携の実現件数 (H26) 0 件→(H28) 6 件	A
ファシリティマネジメント実施方針に掲げた取組の達成率 (H26) 18.9%→(H28) 60.3%	B
インフラ資産の中長期管理計画(優先 12 施設)の策定数 (H26) 7 施設→(H28) 12 施設	目標値以上

(2) 戦略の柱ごとの状況

	目標値以上	A	B	C	基準値以下	—	計
5-1	0	4	6	4	8	4	26
5-2	2	2	3	0	2	1	10
計	2	6	9	4	10	5	36

## 4 主な取組

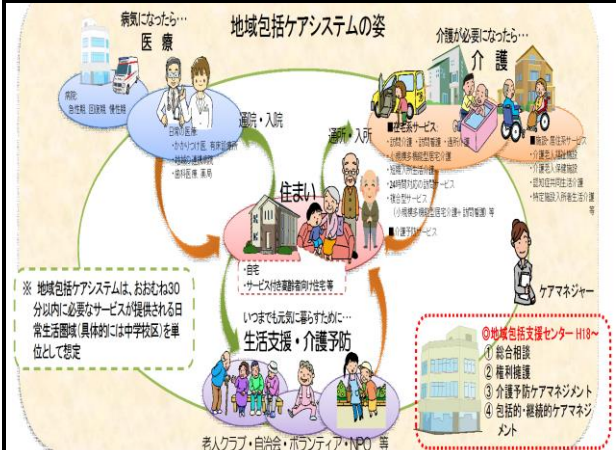
### 地域外交や多文化共生の推進



国際交流員による出前講座

中国、モンゴルをはじめとする海外との地域外交や、国際交流員等による出前講座などにより地域の多文化共生を推進することで、日本人、外国人の双方が異文化に触れる機会を創出し、県民の相互理解や共生意識を高め、企業や学校、地域社会レベルでの国際化に取り組んでいる。

### 地域包括ケアシステムの推進



地域包括ケアシステムの連携図

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、地域の特性に応じて、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを推進している。

### 魅力ある地域圏の形成



美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議

市町と連携し、魅力ある地域圏の形成に向けた施策を推進するとともに、産官学金労言の代表者や女性、若者などに参画いただく「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議」や、5つの圏域ごとの「地域会議」などの場を通じて、幅広い県民の皆様と人口急減に対する危機意識の共有化を図り、地域ごとの異なる特色を最大限に活かした対策をオール静岡で推進している。

### 賀茂地域における県・市町の連携



賀茂広域消費生活センター開所式

賀茂地域は小規模かつ過疎、半島等の条件不利地域にあって行財政基盤が脆弱であり、今後予想される急速な人口減少・少子高齢化の進行に対応するため行政の効率化を一層進める必要があることから、県と賀茂1市5町で構成する賀茂地域広域連携会議を設置し、効率的な事務執行体制の構築に向けた検討と取組を行っている。

# 地域づくりの方向性

	目指す姿(成果指標 H31目標)	成果指標の推移	KPIの現状	主なKPIの推移(H31目標値)	主な施策												
伊豆半島地域	<p>『世界レベルの魅力あふれる自然を生かした観光交流圏』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 2.4兆円以上</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 転入超過</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率「2」</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 (H24) 2兆421億円 → (H25) 2兆638億円 → (H26) 2兆509億円</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 (H26年) △1,833人 → (H27年) △1,573人 → (H28年) △1,494人</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率 (H25年) 1.45 → (H26年) 1.42 → (H27年) 1.42</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 (H27) 17.9% → (H28) 20.7% → (H29) 24.5%</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>目標値以上</td><td>—</td></tr> <tr><td>A</td><td>4</td></tr> <tr><td>B</td><td>1</td></tr> <tr><td>C</td><td>—</td></tr> <tr><td>基準値以下</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>6</td></tr> </table>	目標値以上	—	A	4	B	1	C	—	基準値以下	1	合計	6	<p>伊豆半島地域の観光交流客数(H31:4,700万人) (H25) 3,950万人 → (H27) 4,378万人 → (H28) 4,467万人</p> <p>伊豆半島地域において移住・定住に取り組む地域団体数(H31:13団体) (H26) 4団体 → (H27) 8団体 → (H28) 12団体</p> <p>伊豆縦貫自動車道の供用率(H31:41%) (H26) 33% → (H27) 33% → (H28) 33%</p> <p>伊豆半島地域における県境を越えた広域連携による新規連携施策数(H27~31累計:12件以上) (H22~26) 7件 → (H27) 2件 → (H27~28) 5件</p>	<p>地域資源を活かした観光産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技の開催準備</li> <li>・伊豆半島ジオパークの推進</li> <li>・伊豆DMOによる観光地域づくりの展開支援</li> </ul> <p>移住・定住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の紹介の充実及び広域的な受入態勢の強化</li> <li>・超高速「ロードバンド」環境の整備及びICT利活用の促進</li> </ul> <p>効率的・持続可能なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊豆縦貫自動車道の事業促進及び道路ネットワークの構築</li> <li>・地域公共交通の確保</li> </ul> <p>既存の自治体の枠組を超えた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士箱根伊豆交流圏構想」の推進、「環相模湾」の連携推進</li> </ul>
目標値以上	—																
A	4																
B	1																
C	—																
基準値以下	1																
合計	6																
東部地域	<p>『日本の国土のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 4.3兆円以上</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 転入超過</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率「2」</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 (H24) 3兆6,625億円 → (H25) 3兆7,519億円 → (H26) 3兆8,342億円</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 (H26年) △3,508人 → (H27年) △2,457人 → (H28年) △2,432人</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率 (H25年) 1.59 → (H26年) 1.54 → (H27年) 1.60</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 (H27) 18.8% → (H28) 23.3% → (H29) 24.6%</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>目標値以上</td><td>—</td></tr> <tr><td>A</td><td>1</td></tr> <tr><td>B</td><td>2</td></tr> <tr><td>C</td><td>1</td></tr> <tr><td>基準値以下</td><td>3</td></tr> <tr><td>合計</td><td>7</td></tr> </table>	目標値以上	—	A	1	B	2	C	1	基準値以下	3	合計	7	<p>ファルマバレープロジェクト事業化件数(全県) (H27~31累計:46件) (H22~26) 38件 → (H27) 6件 → (H27~28) 15件</p> <p>東部地域において移住・定住に取り組む地域団体数(H31:10団体) (H26) 2団体 → (H27) 3団体 → (H28) 5団体</p> <p>東部地域の観光交流客数(H31:5,100万人) (H25) 4,275万人 → (H27) 4,508万人 → (H28) 4,623万人</p> <p>山梨・静岡・神奈川三県広域課題に係る新規連携施策数(H27~31累計:8件以上) (H22~26) 8件 → (H27) 2件 → (H27~28) 5件</p>	<p>多極的な産業構造への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファルマバレープロジェクトの推進</li> <li>・地域企業によるCNFの製品化・事業化の促進</li> </ul> <p>移住・定住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設等を活用した地域の魅力の一体的な情報発信</li> <li>・豊かなくらし空間を実現する住宅地の普及促進</li> </ul> <p>交流の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山世界遺産センターを中心とした富士山の情報発信</li> </ul> <p>既存の自治体の枠組を超えた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士箱根伊豆交流圏構想」の推進</li> </ul>
目標値以上	—																
A	1																
B	2																
C	1																
基準値以下	3																
合計	7																
中部地域	<p>『日本の理想郷“ふじのくに”の県都にふさわしい中枢都市圏』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 3.6兆円以上</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 転入超過</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率「2」</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 (H24) 3兆280億円 → (H25) 3兆1,272億円 → (H26) 3兆452億円</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 (H26年) △962人 → (H27年) △1,168人 → (H28年) △811人</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率 (H25年) 1.41 → (H26年) 1.43 → (H27年) 1.43</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 (H27) 31.5% → (H28) 24.4% → (H29) 26.9%</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>目標値以上</td><td>—</td></tr> <tr><td>A</td><td>1</td></tr> <tr><td>B</td><td>—</td></tr> <tr><td>C</td><td>—</td></tr> <tr><td>基準値以下</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>3</td></tr> </table>	目標値以上	—	A	1	B	—	C	—	基準値以下	2	合計	3	<p>フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト事業化件数(全県)(H27~31累計:100件) (H22~26) 105件 → (H27) 22件 → (H27~28) 52件</p> <p>清水港港湾取扱貨物量(H31:1,698万t) (H26) 1,506万t → (H27) 1,468万t → (H28) 1,496万t</p> <p>東静岡から名勝日本平、三保松原に集積する「学術・文化・芸術・スポーツ」施設の観光レクリエーション客数(H31:8,800千人) (H25) 7,296千人 → (H27) 5,989千人 → (H28) 6,036千人</p>	<p>多極的な産業構造への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトの推進</li> <li>・清水港の港湾機能強化・物流機能の再編と物流企業誘致の推進</li> </ul> <p>交流の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化力の拠点」の形成、日本平山頂シンボル施設の整備推進</li> <li>・大学間連携・大学と地域との連携の促進</li> <li>・グランシップなど拠点施設へのコンベンション等の誘致</li> <li>・清水港における国際クルーズ拠点の実現</li> </ul>
目標値以上	—																
A	1																
B	—																
C	—																
基準値以下	2																
合計	3																
志太榛原・中東遠地域	<p>『“ふじのくに”の空の玄関口にふさわしい水と緑(食・茶・花)に彩られた美しい品格のある交流都市圏』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 5.3兆円以上</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 転入超過</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率「2」</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 (H24) 4兆4,440億円 → (H25) 4兆4,685億円 → (H26) 4兆4,249億円</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 (H26年) △1,779人 → (H27年) △1,631人 → (H28年) △1,649人</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率 (H25年) 1.59 → (H26年) 1.55 → (H27年) 1.55</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 (H27) 20.2% → (H28) 21.0% → (H29) 21.8%</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>目標値以上</td><td>2</td></tr> <tr><td>A</td><td>1</td></tr> <tr><td>B</td><td>2</td></tr> <tr><td>C</td><td>—</td></tr> <tr><td>基準値以下</td><td>—</td></tr> <tr><td>合計</td><td>5</td></tr> </table>	目標値以上	2	A	1	B	2	C	—	基準値以下	—	合計	5	<p>「静岡の茶草場農法」応援商品数(H25~31累計:4,100,000個) (H25~26) 4,100,000個 → (H25~27) 4,100,000個 → (H25~28) 4,100,000個</p> <p>志太榛原・中東遠地域における中小企業者の経営革新計画承認件数(H27~31累計:470件)</p> <p>志太榛原・中東遠地域において移住・定住に取り組む地域団体数(H31:12団体)</p> <p>志太榛原・中東遠地域の観光交流客数(H31:3,100万人)</p>	<p>地域資源を活かした産業の創出・集積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「茶草場農法」の発信等による茶のブランド力の強化</li> <li>・地域企業の新成長分野への参入支援と中小企業者による経営革新の取組への支援</li> </ul> <p>移住・定住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中京圏や関西圏へのアプローチによる新たな移住希望者の掘り起こし</li> </ul> <p>交流の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港周辺地域の魅力を活かした賑わいづくり</li> <li>・ラグビーワールドカップ2019開催機運の醸成</li> <li>・「ふじのくに茶の都ミュージアム」を核とした静岡茶に関する情報の集積と発信</li> </ul>
目標値以上	2																
A	1																
B	2																
C	—																
基準値以下	—																
合計	5																
西部地域	<p>『世界トップクラスの技術と多彩な文化で最先端をいく躍進都市圏』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 4.2兆円以上</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 転入超過</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率「2」</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 域内総生産 (H24) 3兆5,385億円 → (H25) 3兆7,139億円 → (H26) 3兆3,207億円</li> <li>◆ 地域圏の社会移動 (H26年) △501人 → (H27年) △496人 → (H28年) △852人</li> <li>◆ 地域圏の合計特殊出生率 (H25年) 1.59 → (H26年) 1.56 → (H27年) 1.61</li> <li>◆ 自分の住んでいる地域が住みよいところと思っている人の割合 (H27) 25.5% → (H28) 22.8% → (H29) 22.0%</li> </ul>	<table border="1"> <tr><td>目標値以上</td><td>—</td></tr> <tr><td>A</td><td>3</td></tr> <tr><td>B</td><td>1</td></tr> <tr><td>C</td><td>1</td></tr> <tr><td>基準値以下</td><td>—</td></tr> <tr><td>合計</td><td>5</td></tr> </table>	目標値以上	—	A	3	B	1	C	1	基準値以下	—	合計	5	<p>フロンティアプロジェクト事業化件数(全県) (H27~31累計:35件) (H22~26) 35件 → (H27) 35件 → (H27~28) 35件</p> <p>西部地域の観光交流客数(H31:2,100万人) (H25) 1,813万人 → (H27) 1,895万人 → (H28) 2,030万人</p> <p>東三河・遠州・南信州地域における新規連携施策数(H27~31累計:10件) (H22~26) 10件 → (H27) 10件 → (H27~28) 10件</p>	<p>多極的な産業構造への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロンティアプロジェクトの推進</li> <li>・地域企業の成長産業分野での研究開発・事業化支援</li> </ul> <p>交流の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にゆかりのある歴史資源等を活用した観光プロモーション等による誘客活動</li> <li>・浜名湖地域DMOによる観光地域づくりの取組の支援</li> </ul> <p>既存の自治体の枠組を超えた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三遠南信地域連携ビジョン推進会議との連携による広域的取組の促進</li> </ul>
目標値以上	—																
A	3																
B	1																
C	1																
基準値以下	—																
合計	5																